

円の融資を受けることになり、前者が毎年90万円後者が72万円の金利を必要とし、第1次償還開始までには金利だけでも前者が1,200万円、後者が940万円となり相当町財政を圧迫することが予想されるのであります。そこで短伐期施業としてモリシマアカシヤの導入を計画し、昨年度若松町が10ha 上五島町が3haの植栽を実施したところ、活着は良行で80%以上の成績を納め得たのであります。なおまた本事業を実施することにより、上五島町で年間7,100人若松町で6,400人の就労が可能となり、低所得に苦悶する部落民の林業

労賃所得の増大と、公共事業費の地元負担に苦しみ、掠奪粗放な施業を繰返し、荒廃に傾いている部落有林の生産性向上を図りたいと考えております。

む す び

以上部落有林対策の一端として、町営造林の実施について述べさせて頂きましたが、今後に残された問題は甚だ多いのであります。

どうか先輩諸賢の御比判と御指導を仰ぎたいと存ずる次第であります。

61. マダケの直径とその地下茎の関係について

九大農学部 青 木 尊 重

マダケの直径と、その地下茎との関係について調査した結果を報告する。

1. 調 査 地

福岡県粕屋郡久山町所在の久山町有マダケ林

2. 調 査 方 法

上記のマダケ林について、各直径階より3~4本宛

合計25本の調査竹を選定し、その地下茎を掘りとり、地表より地下茎までの深さ、地下茎の直径、節間長、比重等を測定した。

3. 調 査 結 果

マダケ立竹の胸高直径と、その地下茎の地表からの深さ、直径、節間長、比重との相関係数、及び両者間の回帰式を計算した結果は第1表のとおりである。

第 1 表 相 関 係 数 及 び 回 帰 式

相 関 事 象	相 関 係 数	回 帰 式	b = 0 の検定 t
胸高直径対地下茎の深さ	+0.917**	$y_1 = 8,767 + 2,055x$	11,230**
胸高直径対地下茎の直径	+0.707**	$y_2 = 1,407 + 0.108x$	4,909**
胸高直径対地下茎の節間長	+0.361	$y_3 = 2,932 + 0.188x$	1,861
胸高直径対地下茎の比重	+0.580**	$y_4 = 0.876 + 0.014x$	3,439**

註 1. ** 1%の危険率で有意

註 2. x : 胸高直径 y₁ : 地下茎の深さ

y₂ : 地下茎の直径 y₃ : 地下茎の節間長

y₄ : 地下茎の比重

4. 考 察

(イ) 立竹の胸高直径と地下茎の深さとの間には0.9程度の頗る高度の相関係があり、立竹の胸高直径が大きくなるにしたがって、地下茎も深くなっている。地位が良好な立地ほど立竹の胸高直径が大きいため、地位の良好な林分の地下茎の深さは深いものと判断される。

(ロ) 立竹の胸高直径と地下茎の直径の関係は、かなりの相関係がある。その相関係数は0.707であつて

立竹の径級が大きくなるほど、地下茎の径級も大きくなる。よつて、前項と同じく、地位の良好な林分の地下茎の径級は大きいものと考えられる。

(ハ) 立竹の胸高直径と地下茎の節間長との相関係数RはR=0.361であつて、R=0の有意差検定の結果は5%の危険率で有意差は認められない。すなわち、この両者間には深いつながりは無いものと判断される。

(ニ) 立竹の胸高直径と地下茎の気乾比重との間の相

関係数は 0.580 であつて、その相関々係はあまり大きくはないが、立竹の胸高直径が大きくなるにしたがつて、地下茎の比重もまた大きくなる傾向が認められる。

(※) 以上の結果を総括すると、地位が良好となるに

したがつて、地下茎の深さは深くなり、またその径級も大きくなり、かつ、その比重も大きくなるから、充実した地下茎は良好な立地条件の林分に存在し、このような立地林分から大径級竹が発生するものと判断される。
